**市政トピックス**

○おおさき宝大使 横綱白鵬関から「横綱」が贈呈されました

　6月8日、大相撲第69代横綱白鵬関と宮城野親方、宮城野部屋の力士の皆さんが鳴子総合支所を訪れ、市の発展を祈念して白麻製の綱「横綱」が贈呈されました。

　この綱は、横綱となった力士だけが腰に締めることができ、年に3回しかつくられない、大変貴重なものです。後ろに輪がふたつ作られている「不知火型」で重さは約14キログラムあり、白鵬関が今年の初場所と3月場所で実際に腰に締めていました。なお、自治体への贈呈は初めてであり、全国で大崎市だけに贈られました。

　力士が行う四股には、大地の邪気を鎮めるという意味があります。受贈した横綱に見守っていただき、安心・安全で笑顔あふれるまちづくりを進めていきましょう。

写真　白鵬関から、大崎市の発展を祈念して贈られた「横綱」

写真　鳴子総合支所で行われた横綱の贈呈式

○宮城野部屋ちゃんこ番長 直伝の味　なる子ちゃんこ鍋講習会

　6月1日、岩出山公民館（スコーレハウス）で、なる子ちゃんこ鍋講習会が行われました。大相撲宮城野部屋の2人を講師に招き、市内の旅館や飲食店などの37人が参加し、宮城野部屋直伝のちゃんこ鍋を手際よく調理していました。

　「宮城野部屋ちゃんこ鍋」は、さっぱりとした味のスープが特徴で、角界でも有名な鍋です。東日本大震災以降、本市の観光客数が落ち込んでいることを知った、宮城野親方の申し入れにより本市が受け継いだものです。

　直伝のなる子ちゃんこ鍋として、鳴子温泉地域の旅館や、市内各種イベントなどで提供を始めてから5年目となります。直伝の味を再確認し、これからも守り広めていくため、ちゃんこ番長の岩崎氏、ちゃんこ長の樹龍関を講師に招き「塩バター」「味噌」「トマト」の3種類のちゃんこ鍋の作り方の指導を受けました。

　講習を終えた参加者に、ちゃんこ番長から新たな認定証が授与されました。ちゃんこ番長から「宮城野部屋がちゃんこ鍋を伝えているのは大崎市だけ。さらに多くの観光客、来訪者の皆さんに広めていただきたい」と、今後の展開に期待を寄せていました。

　8月に、鳴子温泉地域で全国高等学校総合体育大会相撲競技が開催されます。参加者が宿泊する施設では、全国から本市を訪れる選手の皆さんに、直伝のちゃんこ鍋でおもてなしをいたします。

写真　なる子ちゃんこの味を確かめる、宮城野部屋ちゃんこ長

6月の主な出来事

|  |  |
| --- | --- |
| 8日 | ●横綱白鵬関・宮城野部屋ご一行訪問（～9日）  ●横綱白鵬関「横綱」の贈呈式 |
| 12日 | ●宮城県大崎地区LPガス協議会、一般社団法人宮城県LPガス協会と「災害時におけるLPガス等供給協力に関する協定」を締結 |
| 15日 | ●平成29年第2回大崎市議会定例会開会  ●鹿島台地域交通死亡事故ゼロ1000日達成 |
| 17日 | ●大崎市総合防災訓練・緊急速報メール訓練 |
| 21日 | ●日本ものづくりワールド2017機械要素技術展大崎市ブース共同出展（～23日・東京都） |
| 23日 | ●宮城県総合畜産共進会及び全国和牛能力共進会宮城県最終選考会（美里町） |

（写真）鹿島台地域交通死亡事故ゼロ1,000日達成に尽力いただいた皆さん。おめでとうございます。

○おらほのまち

田尻発　田尻の芸達者が勢ぞろい

　6月11日、田尻文化センターを会場に、たじり芸能まつりが開催され、田尻文化協会に加盟する芸能団体の皆さんが、日頃の練習の成果を披露し合いました。

　出演者の皆さんは、それぞれそろいの衣装や華やかな衣装を身にまとい、ダンス、舞踊、楽器演奏、民謡などの多彩なステージで、会場に訪れた約200人の観客を魅了していました。

写真１　曲に合わせて、しなやかなフラダンスを披露

写真２　息の合った演奏で会場を沸かせました

鹿島台発　トマトまつり

　鹿島台地域の名産 デリシャストマトを市内外に発信し、さらにファンを増やそうと、６月11日、鹿島台鎌田記念館でデリシャストマトまつりが開催されました。

　約3,000人の来場客で賑わった会場では、まつり開始前から「トマト詰め放題コーナー」に長蛇の列ができ、当日用意された4.5トンものトマトの大半が売り切れとなりました。また、鹿島台商業高校の生徒らが企画開発した、デリシャストマト使用のオリジナル製品500個は、まつり開始後30分で完売。デリシャストマトの大人気ぶりがうかがえたイベントとなりました。

写真　トマトすくいコーナーと、トマト早食い競争で賑わうこどもたち

岩出山発　「地域愛新聞総選挙」 第1位に輝く

　5月31日、地域愛新聞を制作した、岩出山地域のブルーファーム株式会社早坂社長らが市役所を訪れ、伊藤市長に総選挙1位の報告をしました。

　地域愛新聞は、今年1月に創刊120周年を迎えた河北新報が、地元への感謝の気持ちを表した広告企画で、県内の35市町村が参加。ラジオやインターネットでの紹介やソーシャルネットワークサービスを通じて、全国からたくさんの投票を集め、大崎市のチームが見事1位に輝きました。

　新聞は政宗公まつりや甲冑コスプレ世界大会などを紹介。地元に住む人が楽しく生きている様子を表現し、魅力ある大崎市を多くの人に知ってもらいたいという思いで制作されました。新聞はインターネットで、次のアドレスで見ることができます。（https://miyagilove.kahoku.co.jp/）

写真　笑顔で報告する早坂社長（右から3人目）と、制作メンバーの皆さん